

事業名：【R2補正】甘味資源作物生産性向上緊急対策事業(さとうきび生産性向上緊急支援事

所在 市町村等	事業実施主体	実施年度	目標年度	目標1								目標2								目標3										事業計画 の妥当性	適正な事 業執行	地方農政局長等の所見
				目標	単位	目標数値						目標	単位	目標数値						目標	単位	目標数値						目標年 達成 状況	再評価 達成 状況			
						現状	目標	目標年 実績値	目標年 達成率	再評価 実績値	再評価 達成率			現状	目標	目標年 実績値	目標年 達成率	再評価 実績値	再評価 達成率			現状	目標	目標年 実績値	目標年 達成率	再評価 実績値	再評価 達成率					
名護市	北部地区さとうきび生産振興対策協議会	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	38,140	47,294	32,291	-63.9%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	6	6	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理に取り組むことで生産量の増加を目指したが目標未達。一方、土壌診断の目標は達成できていることから再評価は行わず、引き続き目標達成に向け取組を促す。		
うるま市	中部地区さとうきび生産振興対策協議会	令和2年度	令和3年度	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	7	7	100%	-	-	株出栽培の10a当たり収量5%以上増加	kg/10a	4,192	5,200	4,821	62.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理に取り組むことで単収の向上を目指したが目標未達。一方、土壌診断の目標は達成できていることから再評価は行わず、引き続き目標達成に向け取組を促す。			
那覇市	北大東製糖株式会社	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	28,942	31,836	23,176	-199.2%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	9.3	10.9	117.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理に取り組むことで生産量の増加を目指したが目標未達。一方、土壌診断の目標は達成できていることから再評価は行わず、引き続き目標達成に向け取組を促す。			
南大東村	南大東村さとうきび生産振興対策協議会	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	103,820	109,011	81,968	-421%	-	-	株出栽培の10a当たり収量5%以上増加	t/10a	5.74	6.89	6.20	40%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理による生産量の増加と単収の向上を目指したが、どちらも達成する事はできなかった。しかしながら、事業計画は妥当であり、事業執行は適切であることから、引き続き目標達成に向け取組、次年度に再評価を行うものとする。			
伊是名村	伊是名村さとうきび糖業振興会	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	19,437	21,796	25,236	245.8%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	7	7	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理による生産量の増加と土壌診断の目標について、どちらも目標達成。		
久米島町	久米島さとうきび振興協議会	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	48,587	58,400	50,573	20.2%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	6	6	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理による生産量の増加と土壌診断の目標について、どちらも目標達成。			
石垣市	八重山地区さとうきび生産振興協議会	令和2年度	令和3年度	株出栽培の10a当たり収量5%以上増加	kg/10a	4,101	5,536	5,181	75.3%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	6	4.37	72.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	肥培管理による生産量の増加と土壌診断の目標については、どちらも目標未達であるが、一定程度の成果は出ている。事業計画は妥当であり、事業執行は適切であることから、再評価は行わず、引き続き目標達成に向け取組を促す。			
宮古島市	宮古地区さとうきび糖業振興会	令和2年度	令和3年度	生産量を平年水準以上に増加	t	299,126	354,761	330,308	56.0%	-	-	株出栽培の10a当たり収量5%以上増加	t/10a	4.83	5.86	5.23	38.8%	-	-	土壌診断実施面積を6%以上増加	%	0	6	15.9	265%	-	-	A	-	○	○	肥培管理に取り組むことで単収の向上を目指したが目標未達。一方、土壌診断の目標は達成できていることから再評価は行わず、引き続き目標達成に向け取組を促す。